

一般質問通告書(平成 25 年 6 月定例会)

氏 名・質問事項・答弁先	質 問 要 旨
<p>1 3番 村上 和子</p> <p>1 認知症に対する介護認定の見直しと認知症サポーター養成や認知症についての正しい理解を (町 長)</p>	<p>1 厚労省の調べでは 65 歳以上の高齢者のうち、認知症の人は推計 15%で、平成 24 年時点では 462 万人おり、予備軍も 400 万人いると言われている。上富良野町では要介護認定されている 388 人中 286 人 (73.7%) の人が認知症と言われている。これらの人の中には、要介護度が実態より軽く判定され、本当に必要な介護を受けることができないなどの不満の声もあり、要介護認定審査会で認知症に対する考え方・判定の見直しなどが必要ではないか。</p> <p>2 認知症の専門医の配置や、歯周病で認知症が悪化するとされていることから、口腔ケアの取り組みを強化してはどうか。</p> <p>3 認知症の正しい知識や接し方を学ぶ講座を開催し、認知症サポーターを養成してはどうか。</p>
<p>2 妊娠時に発行する母子健康手帳の町独自の工夫を (町 長)</p>	<p>母子健康手帳の 10 年に 1 度の改正が平成 24 年に行われ、母親や父親の記述欄を増やし、育児情報やデータを新しいものにするということであるが、どのように変更になったのか。妊婦健診の結果や出産状態、子どもの定期検診や予防接種の記録など通常は小学校に入学する 6 歳に役割を終える。20 歳まで成長を記録する自治体もあり、小学校入学以降の身長や体重の記録欄を設け、子どもの成長を幅広く理解するなど、町独自の子育てを支える重要なツールとしての活用を考えてはどうか。</p>
<p>3 東中中学校の閉校後の活用は、若者が多目的に職業を問わず男女の交流などができる出会いの場にしては (町 長)</p>	<p>平成 26 年 2 月 16 日に閉校記念式典が行われる予定の東中中学校閉校後の活用について、農業者の宿泊施設などに限定せず、若者が職業を問わず、男女の交流の場などができる出会いの場として多目的に活用できる施設として考えられないか。</p>
<p>4 就学援助制度の給付内容と金額支給内容との見直しの考えは (教育長)</p>	<p>経済的に苦しい家庭でも子どもが安心して学べるように就学支援制度がある。教育委員会で取り決めている認定の基準になる所得額と、就学援助制度の給付内容と支給額はどのようになっているのか。また、生活保護基準の引き下げと連動する仕組みとするのか。見直しなどの考えはないのか伺う。</p>
<p>2 5番 金子 益三</p> <p>1 町内公共施設の省エネルギー対策について (町 長)</p>	<p>現在、国や北海道においても様々な場所で省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入について取り組みが行われている。上富良野町においても省エネルギーやエコ改修の住宅リフォームなどに対して補助金を活用する事業を行うなど、現在建て替え改築工事を行っている上富良野小学校にも地中熱を利用したヒートポンプの活用を図るなど、様々な取り組みを行ってきている。そこで町長に次の事項を伺いたい。</p>

	<ol style="list-style-type: none"> 1 現在の上富良野町にある公共施設において、それぞれの建物の光熱水費の推移について分析、検討を行った経緯はあるか。 2 今ある公共施設の改修計画について建物の長寿命化に伴い、設備（ボイラー・暖房等）の改修計画はあるのか。 3 役場庁舎や保健福祉センター、消防庁舎さらには町立病院が近くにかたまってあるため、エネルギー棟を建設し、そこから再生可能エネルギーを中心とした一括の管理体制を図るような考え方は持たないか。 4 ESCO 事業を導入し、光熱水費を管理、削減するような考え方はできないか。 <p>今後、ますます高騰するであろう原油等の化石エネルギーを消費することによって、燃料費の増高が予測される中で、再生可能エネルギーの導入は必要不可欠になってくると考える。さらにはCO2削減、地球温暖化防止の観点や環境にやさしい街づくりの考え方なども含めて、他の自治体よりも先んじてこれらの再生可能エネルギーを取り入れ、この美しい上富良野町のみならず、地域を将来の子供たちにさらにクリーンにして引き継ぐためにも一日も早い導入が求められるが町長の考え方、ならびに今後におけるわが町の取り組み方について所信を伺う。</p>
<p>2 十勝岳地域の観光振興について (町 長)</p>	<p>昨年制定された上富良野町の観光振興計画の中でも、十勝岳温泉地区についての戦略的計画については総花的意見として集約されており、十勝岳地区が持つ本来のポテンシャルについてはあまり触れられていない。もちろん大雪山国立公園内にあり大規模な開発ができないことは十分に承知をしているが、今ある施設についても相当の自助努力をしながらもギリギリのところまで運営を行っているのが事実である。ご承知のように昨年は1か所の施設が休館という状況になっており、また十勝岳地域のフラッグシップである施設についても源泉の配管等大きな諸問題を抱えているのが現状であり、加えて冬期間道道の通行止めによる観光客の流入が遮断されるなど、まだまだ予断を許さない現状にある。</p> <p>しかしながら、昨今十勝岳エリアの人気度は様々な分野の熱狂的ファンの方々からは大きな評価を得ており、リピーターとしてのお客さんも数多くいらっしゃる。そこで町長に次の点について伺いたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現在、十勝岳地区には十勝岳温泉郷に2つの温泉施設、吹上温泉郷には1つの施設と1か所の無料露天風呂があり、町では吹上地区に関しては公社を活用して様々な改修を行っている。同様に十勝岳温泉郷の施設についても、十勝岳開発基金等に活用を図り、源泉の確保や上水の安定的供給に支援ができないか。

	<p>2 十勝岳地区は日本の中でも北欧に似ており、特にフィンランドのラップランド地方と気候がよく似ていることから、公益社団法人日本サウナ・スパ協会や、北海道フィンランド協会などと連携を密にして、北海道の中での山岳リゾートの中核として位置づけられるような観光振興に着目できないか。</p> <p>3 アウトドアスポーツの中でも非常に上級者に好まれるバックカントリースキーやバックカントリーのスキーの聖地として売り込みを図り特に観光客が激減する冬期間の観光振興に力を入れる考えはないか。</p> <p>4 昨今非常に人気が高まり近隣の市町村でも取り組んでいるロード自転車のコース整備や情報発信、団体への支援を行い大会などを誘致し、自主開催するような考えはないか</p> <p>以上について町長の所信を伺う。</p>
<p>3 4番 米沢 義英 1 子どもの医療費について (町 長)</p>	<p>子どもの健康を守り、子育ての支援をするためにも、子どもの医療費助成制度を拡充し、入通院を中学校卒業まで完全無料化にすることが必要と考えるが町長の答弁を求める。</p>
<p>2 福祉灯油について (町 長)</p>	<p>灯油の高騰時に住民生活の負担を軽減するために、道の補助制度を活用し、福祉灯油の助成を実施した自治体が広がった。しかし、上富良野町においては恒久的な対策が必要として、福祉灯油の助成を実施しなかったが、今後の対応について伺いたい。</p>
<p>3 観光行政について (町 長)</p>	<p>ラベンダーの植栽が始まっているが、花と炎の四季彩まつりには開花が間に合わないと感じるが今後の対応について伺いたい。</p> <p>1 花と炎の四季彩まつり時の対応</p> <p>2 観光客の入込みを増やすための駐車場の確保を含めたラベンダー園の整備について。</p>
<p>4 町立病院の運営について (町 長)</p>	<p>町立病院には老人保健施設が併設され介護施設として重要な役割を担っているにもかかわらず、介護職員の身分は臨時職員のみであり、正職員としての配置を検討すべきでは。</p>
<p>5 公共施設の使用料について (教育長)</p>	<p>スポーツサークルが公民館・防災センターを使用するときは1時間150円、文化サークルが使用するときは公民館では1時間2,400円、防災センターでは1,200円で、使用料金の見直しが必要では。</p>
<p>6 トイレの改修について (教育長)</p>	<p>富原野球場横のトイレは古く悪臭もひどいため、早期の改修が必要と考えるが。</p>

<p>4 8番 谷 忠</p> <p>1 建設・土木業の作業員を対象にした退職金制度について (町 長)</p>	<p>建設・土木業に従事する作業員を対象にした「建設業退職金共済制度（建退共）」。国が定めた中小企業退職金共済法に基づき創設され、勤労者退職金共済機構が運営している。建設業を営む事業所が任意で加入し、建設業で働くのをやめた時、同機構から退職金が出る仕組みである。</p> <p>建退共に加入している会社は、作業員が働いた日数に応じて、共済手帳に金融機関から購入した証紙を貼らなければならない。証紙の枚数から割り出した勤務年数に応じて退職金が支払われる。加入は事業所の任意なので、法的な権限での指導は不可能と言われているが、上富良野町での公共事業の入札時における地元業者への対応と町外業者の実態の把握はどのようにされているか伺う。</p>
<p>2 町の経営の視点に立ったシンクタンクと自治体の使命度について (町 長)</p>	<p>近年、地域おこし、町づくりが盛んに叫ばれるようになった。国からの指示に従った地域振興策だけではなく、住民の主体的な参加、自らの出前で実践する「内発的な地域づくり」とも言われている。</p> <p>地域社会にとって最も大きな組織体は役場であり、人材、財政力、情報の収集力、情報を発信する能力を兼ね備えた大企業である。この拠点、核が地域振興の先頭に立つことなく、単なる事務屋で終わっては地域における人づくり、職員の活性化、内発的事業などが進むことはない。この豊富な情報と人材を動員して、町の産業の方向性、地域開発、交流人口の獲得など、「地域経営」の視点に立ったシンクタンクとしてその機能が発揮できるか否かにかかっていると思うが、いかがか。</p> <p>内部の討論集会を開き、提案制度の活用、地域づくりは、まず、職員一人一人にかかっていると言っても過言ではない。すでに地域づくりの施策として「上意下達」から「下意上達」の時代が始まっている。一層の自覚と奮起を願ってやまないが、町長の指導力と決意のほどを伺い、併せて自治体の使命と住民の幸福感についての考えを伺いたい。</p>
<p>5 1番 佐川 典子</p> <p>1 風疹予防接種の無料化について (町 長)</p>	<p>風疹は風疹ウイルスにより感染し、妊娠初期にかかると流産を起こしたり、心臓奇形・目の異常・難聴などの先天性風疹症候群の障がいがある。妊娠中は風疹の生ワクチンが接種できないことから、免疫のない人は初期の感染予防に努めるしかない。そこで、風疹予防ワクチンの接種率が低い年代の男女や妊婦・その夫、今後妊娠する可能性のある女性を対象に予防接種の無料化をして、将来生まれてくる子どもや両親となる若い世代の不安を解消してはどうか。</p>
<p>2 郷土学習の資料に自衛隊の記述がないことについて (教育長)</p>	<p>郷土学習の資料（小学3・4年生、社会科副読本）について質問する。郷土学習は町の成り立ちと歴史、その地域に住む人々の暮らしの様子を通して町と人々の繋がりなどを学び、自分や家族・その土地特有の住民気質と文化がどのように影響を受け育ってきたのかなどを学ぶ大変重要な社会科学学習である。</p> <p>この学習を通して郷土愛を育てる意味合いを持っていることを忘れてはならない。</p>

	<p>その中に自衛隊の現状についてや、自衛隊OBを含め人口の約1/5を占める構成員であること、様々な仕事の1つであることなどの記述がなく、この存在を学ぶ事は重要と思われる。町長は農業・自衛隊・商工業は町の3本柱だと言っている。郷土学習資料の今後の改訂について教育長はどのように考えているのか。また、古い資料が5年も継続的に使われていることについても伺いたい。</p>
<p>6 9番 岩崎 治男 1 農業所得に対する町長の考え方を伺う (町 長)</p>	<p>先日、安倍晋三首相は講演で農業強化と景気回復に向けた企業支援を柱とする成長戦略を発表した。農業関連では農家が生産から加工、販売までを手掛ける「6次産業化」の市場を今後10年間で10兆円に拡大するとともに、農業農村の所得を現在の3兆円から倍増させる。また、企業支援では民間の設備投資額を今後3年間で年70兆円規模に拡大する目標を掲げた。</p> <p>向山町長は2期目の新しいまちづくり構想で生き生きとした産業育成ということで</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい産業の創出 2 特産品を活用した食による地域おこし <p>を構想としている。</p> <p>若者が希望の持てる上富良野町の農業・農村。また、「6次産業」に対する推し進め方はどのように考えているのか伺う。</p>